

第11回 保育フェスティバルを開催しました

オープンキャンパス・短大フェスティバル検討委員会 戸敷 早苗

保育フェスティバル開催も今年で第11回目を迎えました。2回合計380名の方々にご参加頂きました。保育フェスティバルは、保育士・幼稚園教諭を目指す保育科・専攻科の学生81名が日頃の学習で培った保育に関する専門的知識や技術をもとに、クラスの仲間やボランティア実習1の授業受講生とともに学生自ら指導案を作成し、担当教員に指導を仰ぎながら主体的に準備・練習を進めてきました。保育フェスティバル当日、子どもたちや保護者の方々に笑顔で丁寧に接している姿から、近い将来保育士・幼稚園教諭として活躍している様子が浮かんできました。



	1回目		2回目	
日時	平成30年10月20日 10:00~12:30		平成30年12月1日 10:00~15:00	
場所	宮崎学園短期大学 国際交流センター (研修室/食堂)		イオンモール宮崎 2階 イオンホール	
参加者数	大人	44人	大人	151人
	高校生	2人		
	子ども	50人	子ども	133人

現在の就職状況

就職指導課 田村 広美

全国的には就職率は好転していると言われていますが、厳しい就職戦線を打破して内定をいただいている状況です。企業訪問や説明会への参加、筆記試験対策等の各自の積極的な就職活動が必要となります。

また、保育園・幼稚園・施設等は、昨年度同様求人数が多く、就職希望者の8割が年内に内定をいただいております。まだ進路の決定していない学生の皆さんも諦めずに活動をしていきましょう。

卒業式・修了式のご案内

式は、卒業証書・学位記、修了証書授与式という形で挙行されます。

多数の保護者の参列をお待ち申し上げます。式終了後、卒業生は各教室に別れて学級主任から証書等を受け取ります。

どうぞ保護者の方も教室にお入りください。

日時 3月19日(火) 10時~ 場所 本学体育館

地域交流研究センター活動報告

地域交流研究センター長 有嶋 誠

宮崎学園短期大学地域交流研究センターの活動状況を報告します。

地域交流研究センターは、地域との情報交換や交流活動を通して、本学の地域貢献を推進し研究することを目的としています。特に、日本一の短大を目指し「開かれた大学づくり」を合言葉に、本学の教職員や学生が地域社会で貢献活動を行うことによって地域社会から信頼される短大を目指しています。教職員は専門性を活かし、社会現場のニーズに応じた学習の場を提供しています。学生は自身の主体的・貢献的な活動を推進し自分自身を成長させています。

教職員の地域貢献活動としては、市民を対象にした市民講座や保育者を対象とした「保育研修会」を実施しています。市民講座(公開講座)は一般市民を対象にした「シニアいきいきセミナー」「ニューライフアカデミー」と子育て中の親子を対象とした「子育て支援セミナー」を2日間実施しています。

「シニアいきいきセミナー」は、「歩く」の効用と実践〜アクティブに歩く〜を、「ニューライフアカデミー」は「音楽の魅力〜さまざまな音楽表現〜」を実施しました。また、「子育て支援セミナー」は、子育て中の母親と子どもを対象に音楽遊びを行い、多くの親子が音楽による親子のふれあいを楽しみました。

「保育研修会」は10年目を迎え、県内の保育園や幼稚園等に勤務する83名の保育者を対象に「楽しいリトミック」と「子どもの音楽遊び」を実施し、保育者の指導技術を高めたり、指導の悩みへの相談を受けたりしました。

学生の地域貢献活動としては、一般ボランティアの活動とボランティア実習の授業による活動があります。一般ボランティアは、延べ73名の学生が県内でボランティア活動を行っています。また、ボランティア実習の授業では「依頼型ボランティア学生」と「課題解決型ボランティア学生」に別れて活動を行いました。

私の担当する「課題解決型ボランティア実習」の授業には10名の学生が参加しています。10名の学生は社会福祉協議会清武支所と自分の住んでいる地域の社会福祉協議会を訪問し、県内のボランティア活動の現状と課題を探りました。その後、清武町内で10時間以上、住んでいる地域で15時間以上のボランティア活動を体験しました。学生は「保育園の夏祭り」「幼稚園の運動会」など様々なボランティア活動を行っており、清武町や住んでいる地域のボランティアに貢献しました。

地域交流研究センターは、今後とも教職員や学生の地域交流や地域貢献を推進し、日本一の短大を目指していききたいと思っております。

後援会総会のご案内

後援会総会は、入学式終了後に行われます。

決算・予算の承認、役員を選出を予定しております。

日時 4月7日(日) 11時30分~(入学式終了後)

場所 本学体育館



2 後援会だより

Feb 2019 Vol. 38



保育フェスティバルの様子

目が開かれる喜び

伝えたいことが伝わらない

教師なら、何度も体験することであるが、教えたことが伝わっていない!

「先生言ったでしょ!」と口を荒げたくなるが、「伝わったことが伝わったこと」なのである。

自分の説明の仕方を反省する。

伝えたいことが全部伝わることはない。7割か、3割か。なぜ伝えたいことが伝わらない?

お互いが我田引水

人の言うことを理解しようとするとき、人は自分の知っている「~のようなこと」として、自分に引きつけて理解する。そこにズレが生じる。同じように教える方も、自分の知っている世界に基づいて、こう言えば分かるはずと思っている。言うなれば、お互い我田引水なのである。二つの世界のズレがなかなか自覚されない。

対話が開く互いの世界

このズレを埋めるのは対話しかない。相手の理解を正そうとし、その過程で自分の理解も正される。

様々な聞き違い、取り違いがある。一筋縄では行かない。

異なる意見を持つ人との対話は、やっかいでもあるが喜びにもなる。やっかいと思えば人付き合いを避けるしかないが、自分の世界を広げてくれると思えば、自分の成長につながる。

発見のある学びは楽しい

最近読んだノア・ハラリ『サピエンス全史』の中で、人類は狩猟採集から農耕生活に移ることで、人類同士の暴力が生まれ、病気や栄養不良に苦しむことになってしまった。さらに人類が小麦を栽培するようになり「小麦が私たちが家畜化した」という説明に出会った。なるほどと感心させられた。

様々な人の「こう思う」世界に出会い、自分の「こう思う」世界を正していくのは、目が開かれる喜びがある。目が開かれるよう、心を相手に開いていたい。



学長 宗和 太郎

輝ける忍ヶ丘 (学生の成長)

保育科

地元への貢献を目指す宮崎学園短大保育科 保育科長 中武 亮子

この1年も保育科、専攻科(福祉専攻)の学生たちは、学内での専門的な学び、実習先での実践的な学びで幼稚園教諭免許状、保育士資格、介護福祉士資格を取得し、身に付けた力で地域に貢献できることを目指して頑張ってきました。宮崎県内でも保育・介護の人材不足が叫ばれる中、宮崎学園短期大学保育科では毎年、卒業生の9割以上が地元の保育・幼児教育、介護の現場にお世話になります。いずれも命を預かる大切な仕事で、若い学生たちにとっては大きな喜びややりがいを感じるとともに、様々な試練もあることと思います。そのような中、先輩方のご指導を受けて成長した卒業生に会うことができたり、活躍の情報を耳にしたりするたびに皆で喜び、目の前の学生を育てていく力をいただいています。今後とも本学の教育にご理解をいただき、お力添えをいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。



入学して良かったこと

保育科2年 持永 ちはる

私は、幼い頃からの夢を叶えるために宮崎学園短期大学の保育科に入学しました。入学する前は、授業についていけるか、ピアノが弾けるようになるかなどの不安ばかりでした。しかし、入学してみると先生方が一つ一つ分かりやすく教えてください、ピアノも個人に合った進め方をしてくださるので、楽しく学ぶことができています。また、同じ夢を持つ人達と多くのことを学んでいくので、辛いことがあってもお互い支え合い頑張ることができました。実習では、今まで学んできたことを活かし臨むことができます。その中で、自分の課題を知ることができ、とても勉強になりました。私は、幼稚園に内定をいただきましたので、これまで学んできたことを十分に発揮し、子どもや保護者に信頼される保育者を目指したいです。



専攻科(福祉専攻)

現場のリーダーを育成

専攻科(福祉専攻)主任 花畑 明美

本学の専攻科(福祉専攻)は、入学要件としての保育士資格を取得後、一年間で介護福祉士資格取得を目指して、講義・演習・年4回の介護現場実習を行い、介護福祉士国家試験合格に向けて学生と教員とが一体となって励んでいます。今年も国家試験受験に向けてクラス全員で学ぶ姿勢に感動を覚えました。また、専攻科修了生の多くは保育士資格に併せて、社会福祉主事任用資格、幼稚園教諭(二種)免許を取得しているため、専攻科修了後は、宮崎県内の高齢者・障がい者施設や保育所・幼稚園など幅広い福祉・幼児教育分野で活躍しています。本学修了生は、建学の精神「礼節・勤労」の教えを学び身につけることで、福祉・教育人としては勿論、礼節ある社会人として社会に貢献する姿勢が県内外の就職先からも高い評価を頂いております。今後益々、本学修了生が地域のあらゆる現場でリーダーとなり活躍してくれることを願っています。



成長を実感

専攻科(福祉専攻) 小倉 汐織

専攻科に入学して、一番心配したことが実習でした。1年間で4回の実習をやりきることができるのかとても不安でした。しかし、そんな実習も毎週先生と会って話ができる安心感と、何よりひとりではないことが支えとなり、無事終わることができました。私は、県外から入学したため、保育実習ではほとんどひとりでした。そのため、学年と一緒に施設で頑張り、励ましあい、教えあうことができたのはとても心強かったです。また、介護の現場では、様々な職種の方が利用者の生活をより良くするために連携を取りながら働いていました。看護師や栄養士、理学療法士、作業療法士など、どういったことをしていっているのかお話を聞くこともできました。それぞれの職種から様々なことを学び、自分が見てきた世界はとても狭く、色々な見方ができることに気付きました。就職しても、視野を広く持つこと、多角的に物事を観察することを忘れないようにしたいと思います。



現代ビジネス科

将来を担う人材を育てる

現代ビジネス科長 矢田 憲太郎

本学科は、建学の精神「礼節・勤労」を基調として、第四次産業革命とも言われる本格的なAI時代の到来や地球規模で変化し続けるグローバル社会の中でも、自己の特性を生かして自己実現できる社会人を育成することを目標にしております。その中でも特に、全ての教育活動を通して、自分で「考え」「判断し」「行動できる」力を身につけさせることが大切であると考えております。また併せて、AIに負けない企画力や想像力、人にしかできない質の高いコミュニケーション力やおもてなし力といったこれからのビジネス社会における必須の資質を身につけることができるのも本学科の特徴です。更には、二年間の専門学習で学ぶ高次の資格・検定取得や現場実習をはじめとする様々な体験を自信に繋げ、学生一人ひとりの自己実現を具体的に支援できるより実践的でより能動的な専門教育を行ってまいります。学生一人ひとりの可能性を伸ばし、将来を担う人材へと成長させることができるよう学科職員一丸となって取り組んでまいりますので、今後ともご助言・ご指導を賜りますようお願いいたします。



軽トラ市
商工会と連携して地域活性化に貢献



秋の忍ヶ丘祭
各コース一致団結盛り上がりました



企業見学
宮崎の新しい農業ビジネスを学ぶ



特殊詐欺防止講座
短大で学んだ専門性で地域貢献

一年間学んだこと

現代ビジネス科 ビジネスコース1年 池田 遼

私が、一年間学んだことは「努力は結果になる」という事です。私は普通科の高校を卒業したので、パソコンはネット検索でしか使った事がありませんでした。しかし、短大でタッチタイピングというパソコンのキーボードを見ずに打てるようになる事を学びました。最初は本当に難しく、単語を一つ探すのにも苦勞をしましたが、授業の中で先生方にコツを教えてもらいました。今までタッチタイピングをした事が無かったので正直半信半疑でしたが、教えてもらったことを信じて続けてみると、1ヶ月後には、手元を見ずに打てるようになり、ワープロ検定に合格するなど結果もついてきました。また、この他にも秘書検定や簿記検定の取得でも努力すれば必ず結果が出るというのを学べました。これからは、資格取得に加え、このビジネスコースの魅力でもある実践的なビジネススキルも身につけることができるよう努力していきたいです。



信頼を得られる医療事務員を目指して

現代ビジネス科医療事務・医療秘書コース1年 志田 みな子

入学してもうすぐ1年になります。私は日向市出身です。入学式当日は同じクラスに一人も知り合いがおらずとても不安でしたが、入学のその日にすぐに友達ことができました。そして、一人暮らしも充実しています。学校とアルバイトを終えた後に自分で家事をすることは大変ですが、学ぶことが多くあります。私が一番感じているのは、今までどれだけ家族に助けられていたかということです。帰ったら美味しい夕食ができていて、ということがどれだけありがたいことかを実感することができました。学業に関しては、毎日新しい知識を増やすことができます。私は医療について学ぶことが多いですが、専門知識を覚えるだけではなく、その知識をどう役立てるかというところに重点を置いて学んでいます。将来は病院の医療事務として働くことが目標なので、人からの信頼を得られる医療事務員になれるようこれからも学業に専念したいと考えています。

